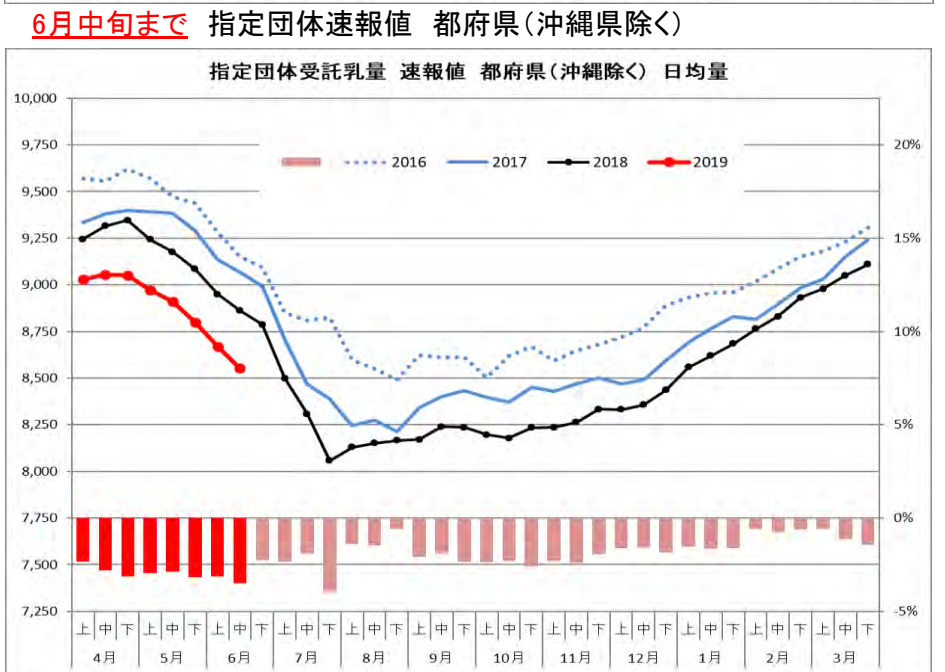
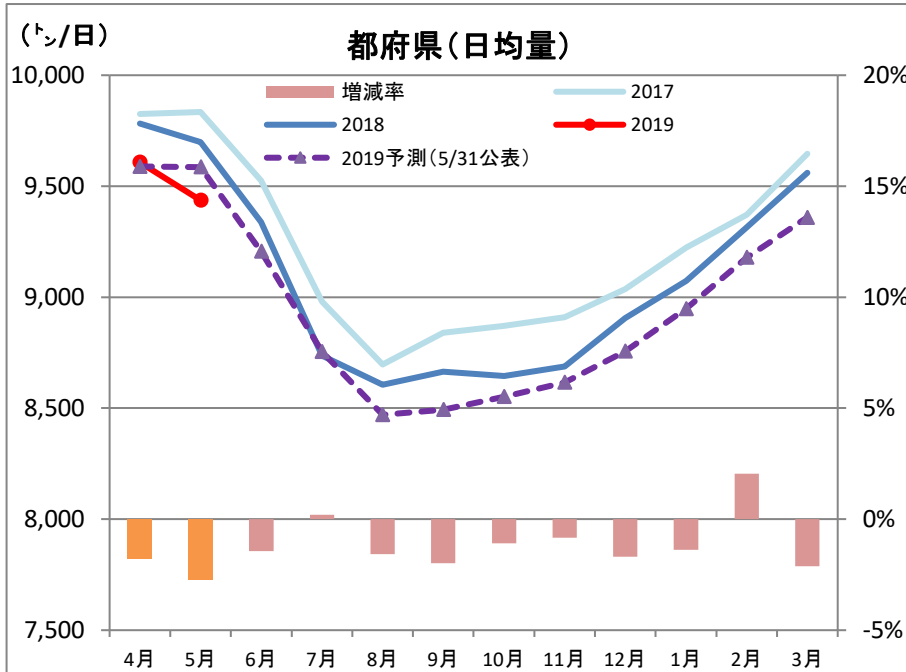
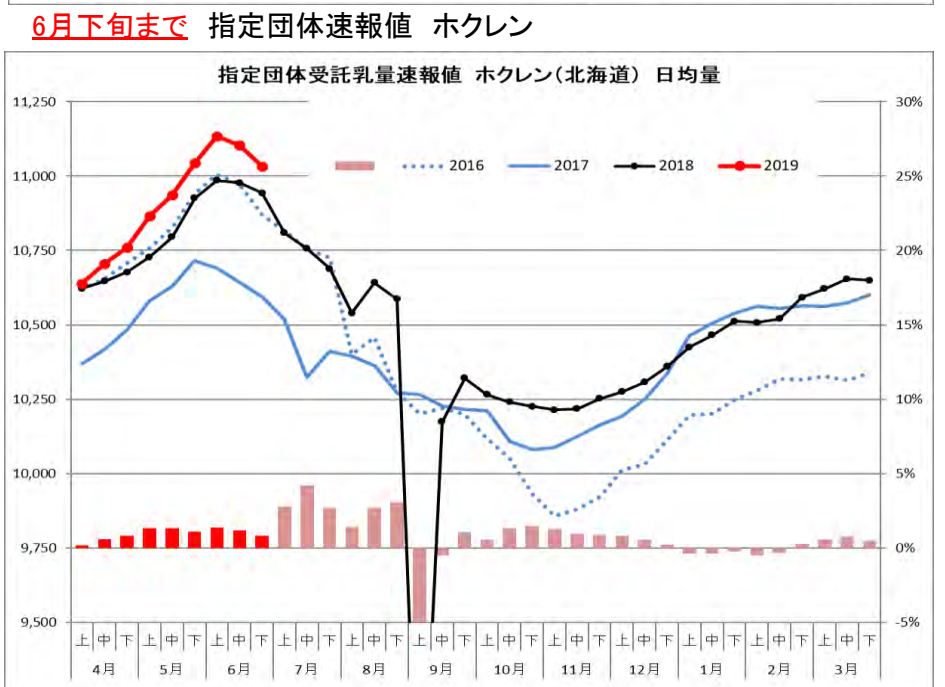
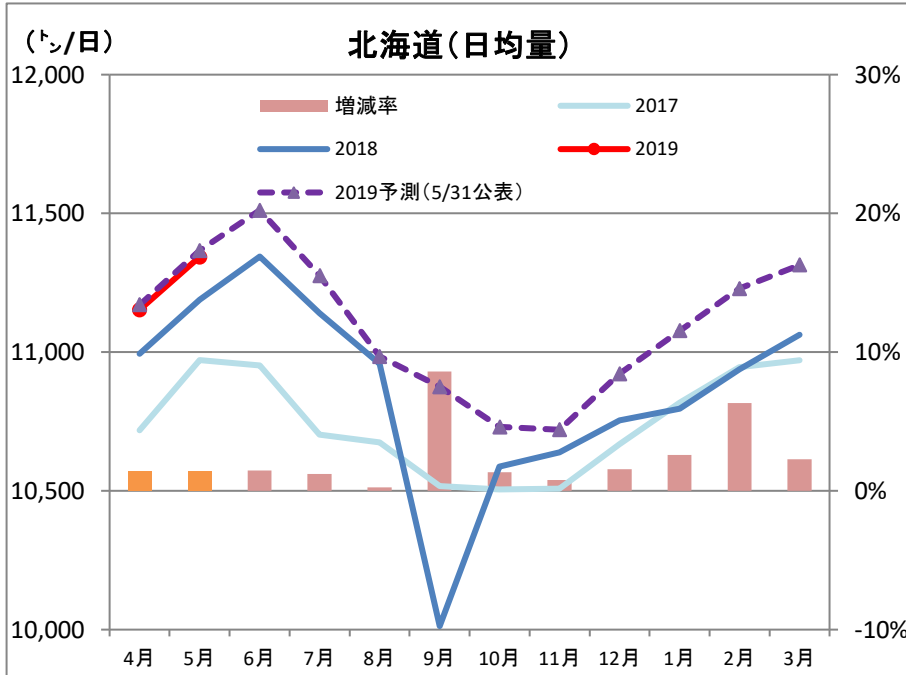
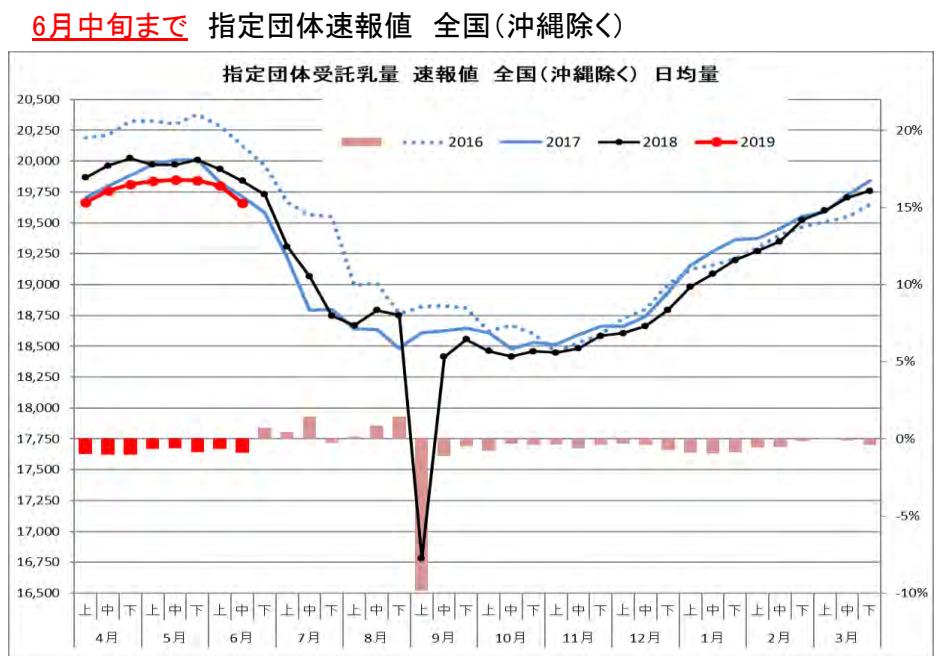
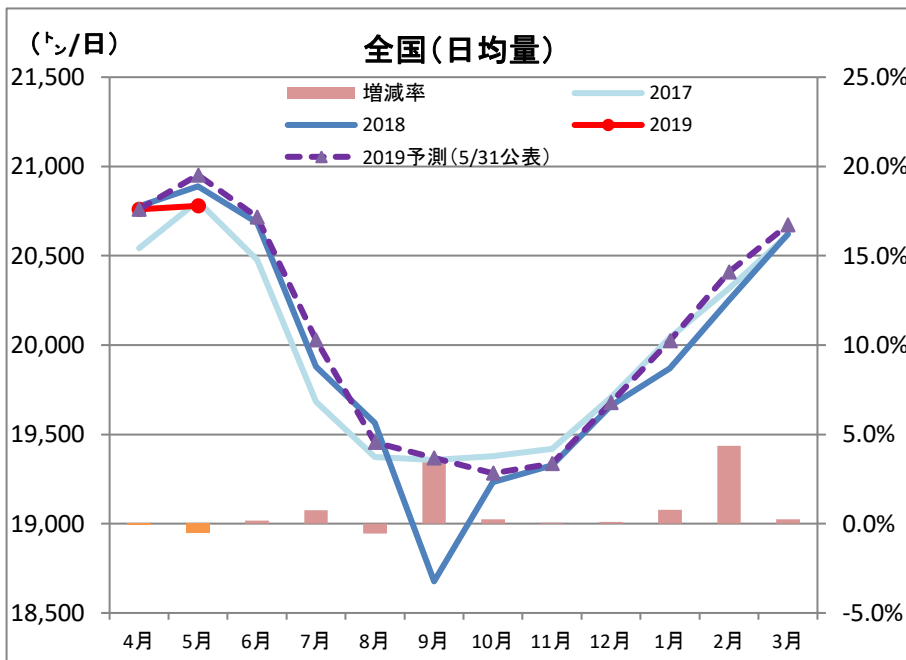


Jミルクが**2019年5月31日に公表**した直近の「需給見通し(※2019年4月迄実績)」の予測値と実績をグラフ化しています。
 毎月25日の「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も随時、配信していきます。 発行:一般社団法人Jミルク生産流通グループ

【生乳生産量】

- (1)5月の生乳生産量は、全国644千ト(前年同月比99.5%)、北海道352千ト(同101.4%)、都府県293千ト(同97.3%)。
- (2)北海道は前月と同程度の増産となった一方、都府県は**Jミルク5/31予測値(同98.8%)を1.5ポイント下回る結果となった**。都府県の生乳生産シェアの3割強を占める関東について、例年この時期に生産ピークを迎えるが伸び悩んだ(5月 関東の生乳生産量同97.7%)。昨年7月の記録的な猛暑により受胎率に影響があったとみられ、出生頭数が前年を下回ったことが要因の一つと推察される。
- (3)中央酪農会議が公表した5月の指定団体受託乳量(北海道同101.2%、都府県同96.8%)と統計を前年同月比ベースで比較すると、**受託乳量の方が統計より、北海道で▲0.2ポイント、都府県で▲0.5ポイント**となり、前月よりは圧縮したものの乖離が生じている。
- (4)6月の指定団体受託乳量速報値では、北海道(下旬まで)は同101.1%と4ヶ月連続の増産。一方、都府県(中旬まで)は同96.7%。全国(中旬まで)は同99.2%となっている。



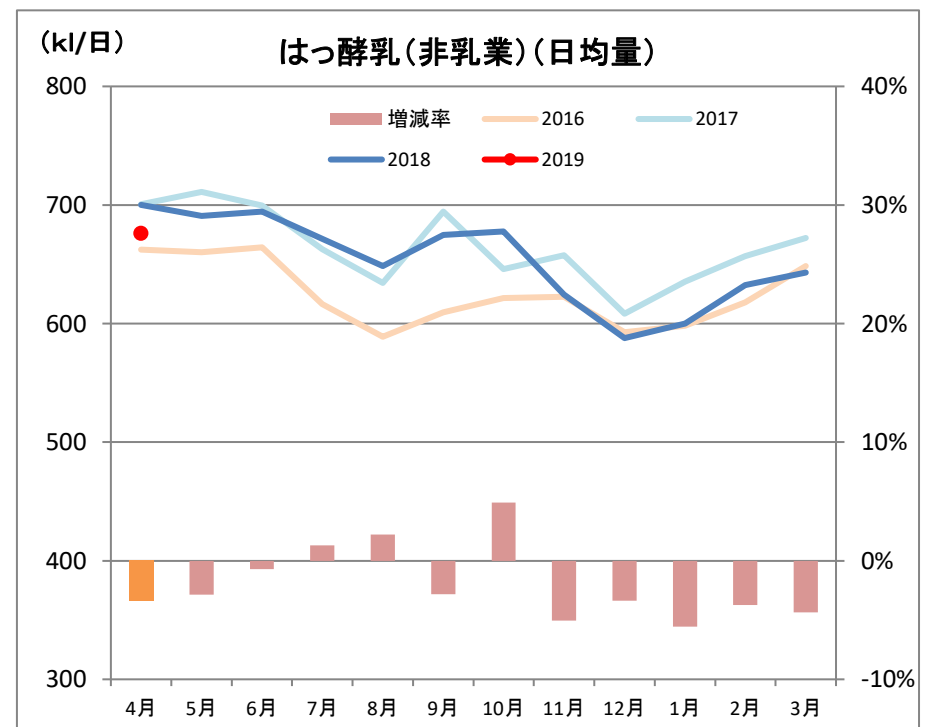
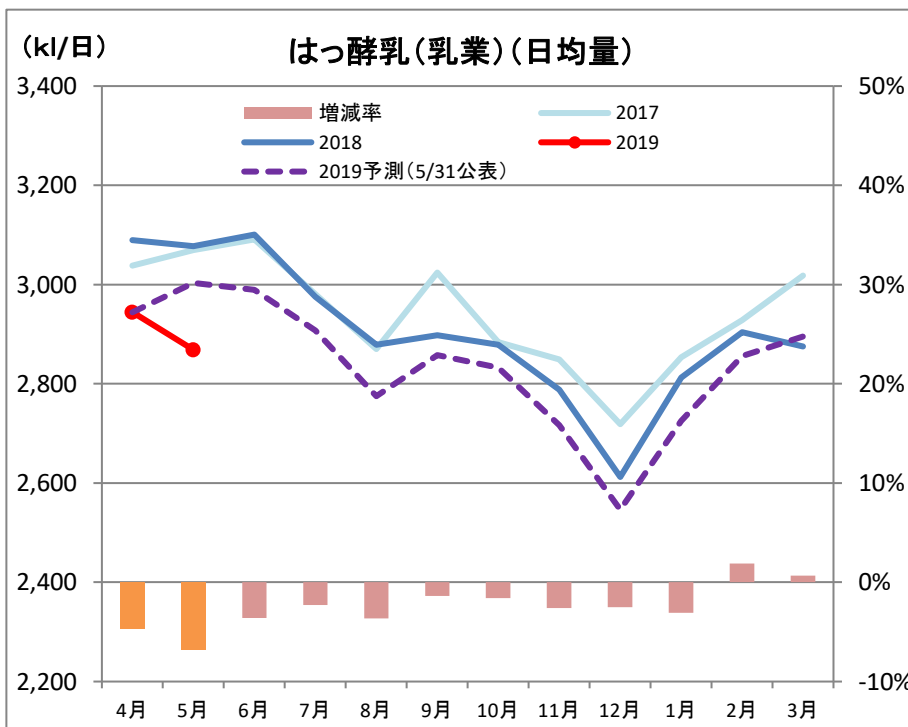
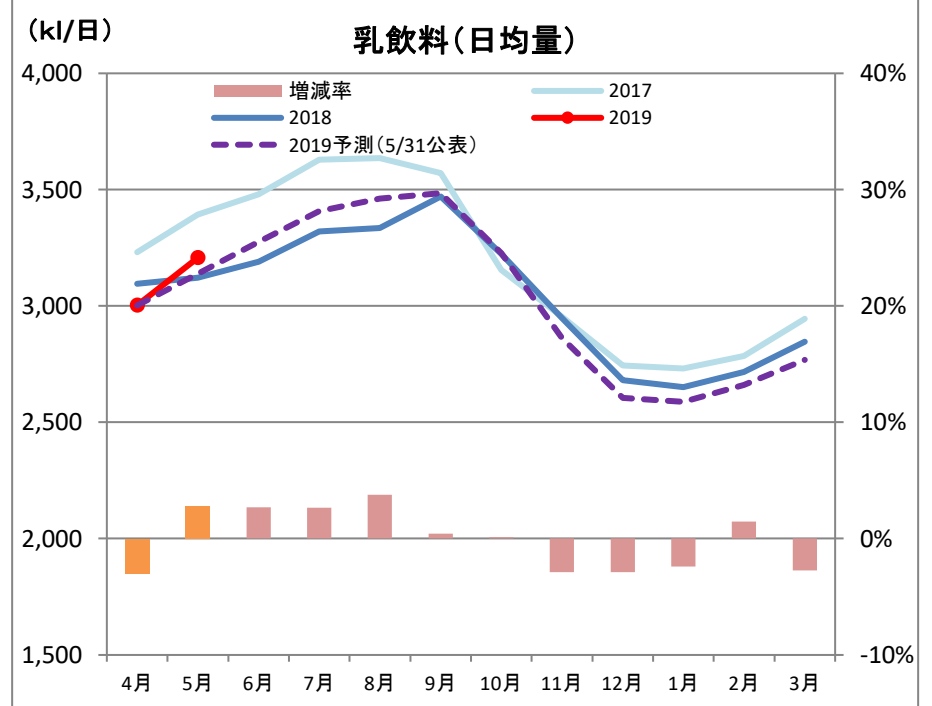
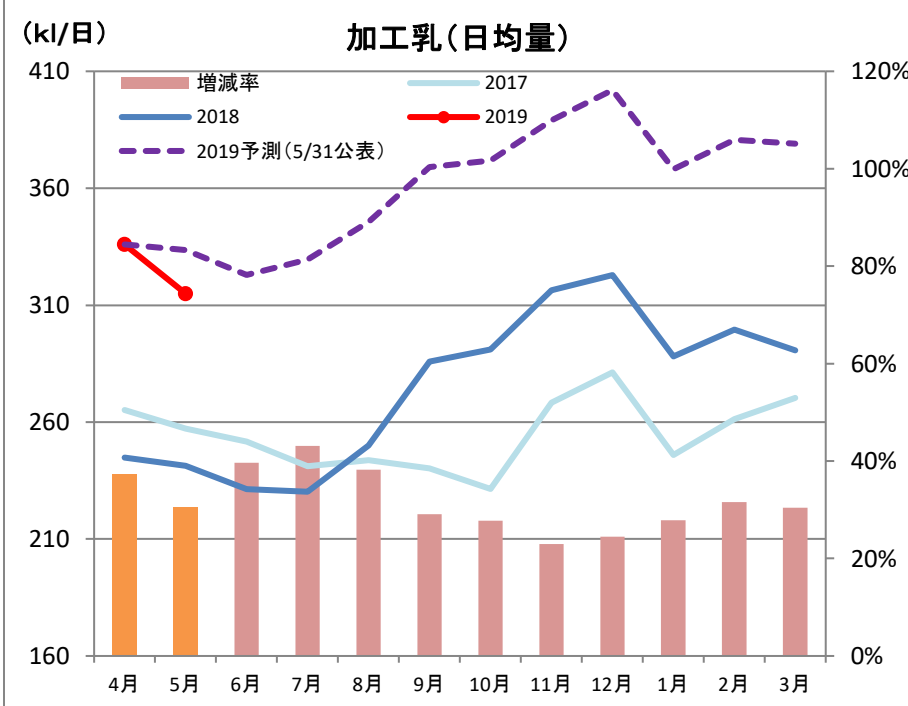
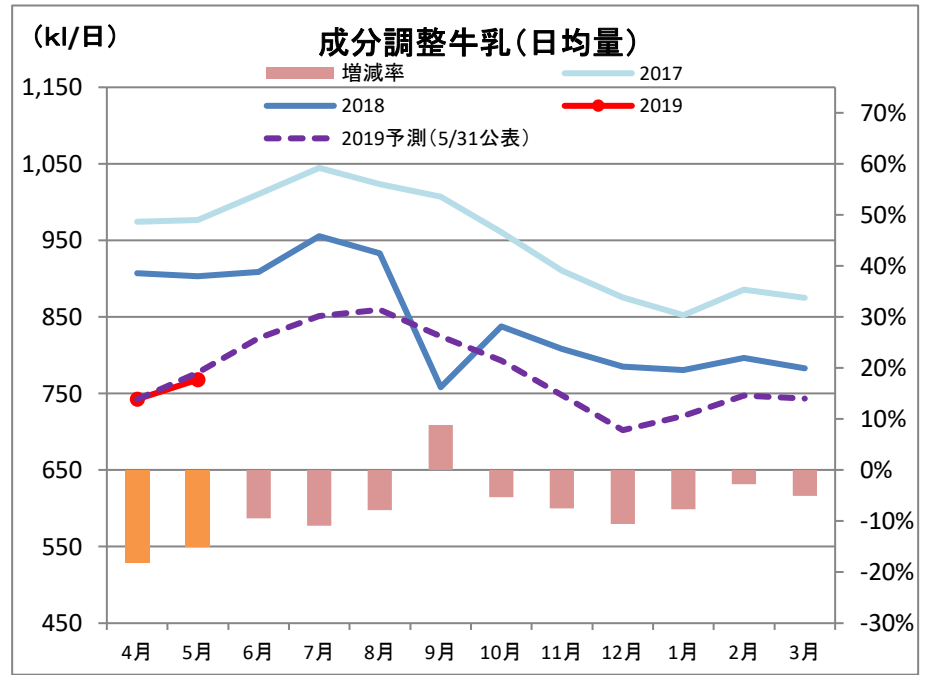
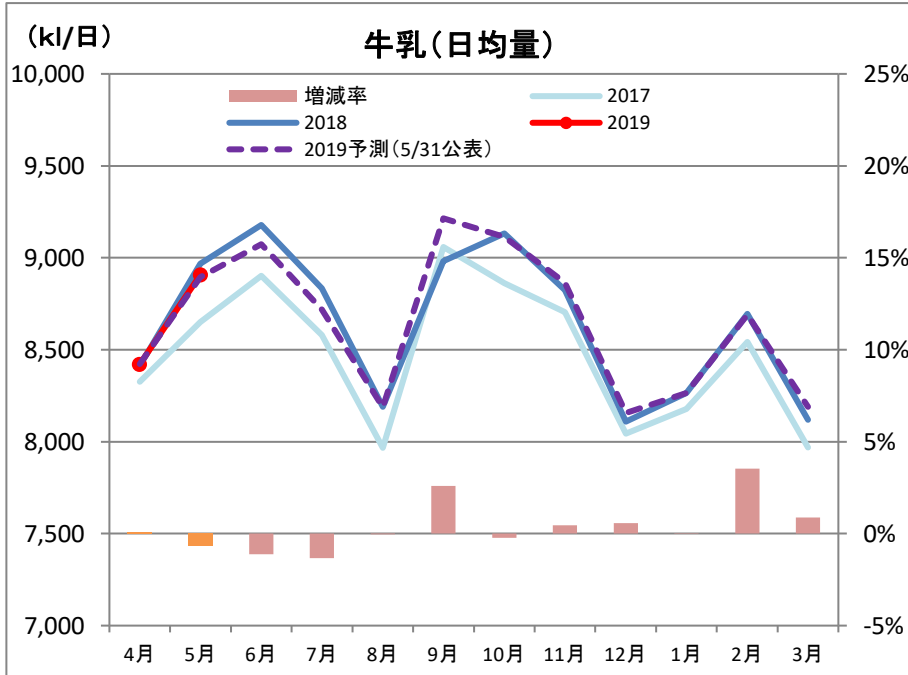
【牛乳等生産量】

(1)5月の牛乳等生産量は、牛乳276千kl(前年同月比99.3%)、成分調整牛乳24千kl(同85.1%)、加工乳10千kl(同130.5%)、乳飲料99千kl(同102.8%)となり、牛乳類で409千kl(同99.7%)となった。

(2)牛乳について、昨年同月は情報番組の影響もありと好調であったこと(2018年5月の「牛乳」の前年同月比は103.7%)、「**学乳を除いた牛乳**」の生産量は前年を上回ったこと(同100.4%)を踏まえると、乳価値上げの影響を感じさせない堅調な需要が伺える。

(3)一方で、5月のはっ酵乳(乳業)は89千kl(同93.2%)と前年を下回り、9ヶ月連続で前年割れ、4月の非乳業実績についても同96.6%と6ヶ月連続で前年割れとなり、ダウントレンドが続く。はっ酵乳消費の減少は、その原料となる脱脂粉乳・脱脂濃縮乳の需要へ影響を及ぼすことが想定される。

※はっ酵乳(非乳業)資料:(一社)食品需給研究センター「食品製造業の生産動向」



【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI】

(1)5月の動向

・**販売個数**は、牛乳:前年同月比96.9%、成分調整牛乳:同76.9%、加工乳:同186.0%、乳飲料:同95.4%

・**販売単価**は、牛乳:191.6円(+7.3円)、成分調整牛乳:174.2円(+4.0円)、加工乳:193.2円(+43.5円)、乳飲料:153.2円(+6.4円) ※()は3月との比較。

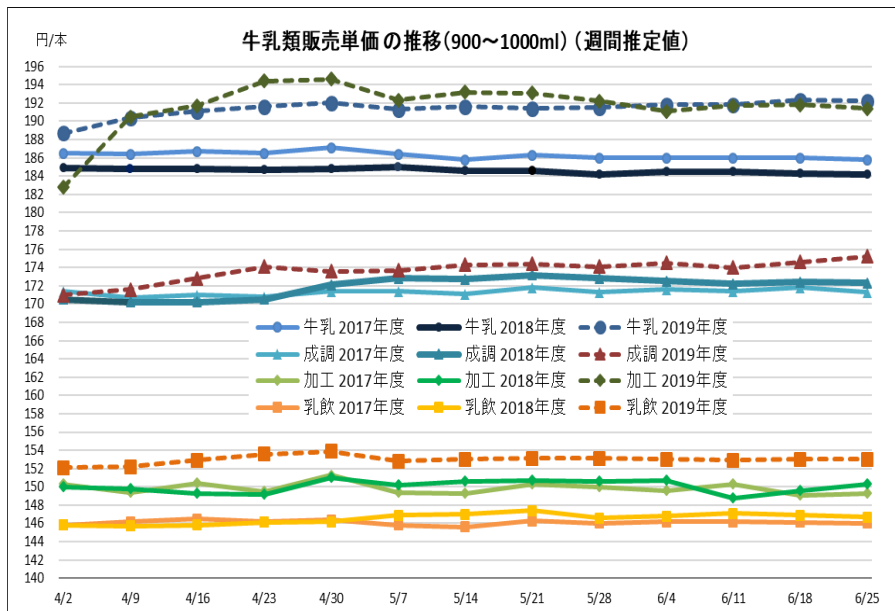
5月に入り各品目の価格は更に上昇した。なお、当該データと牛乳乳製品統計を比較した(5月、前年同月比ベース)場合、当該データは統計より、牛乳▲3.4ポイント、成分調整牛乳▲8.2ポイント、乳飲料▲7.4、加工乳+55.5ポイントの乖離が生じている。

(2)6月の動向

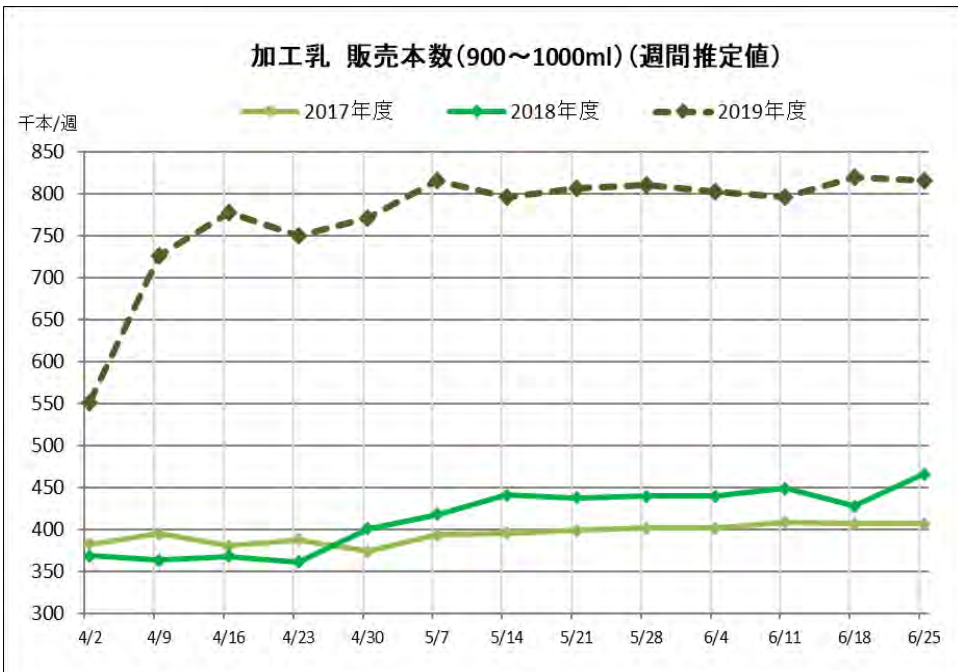
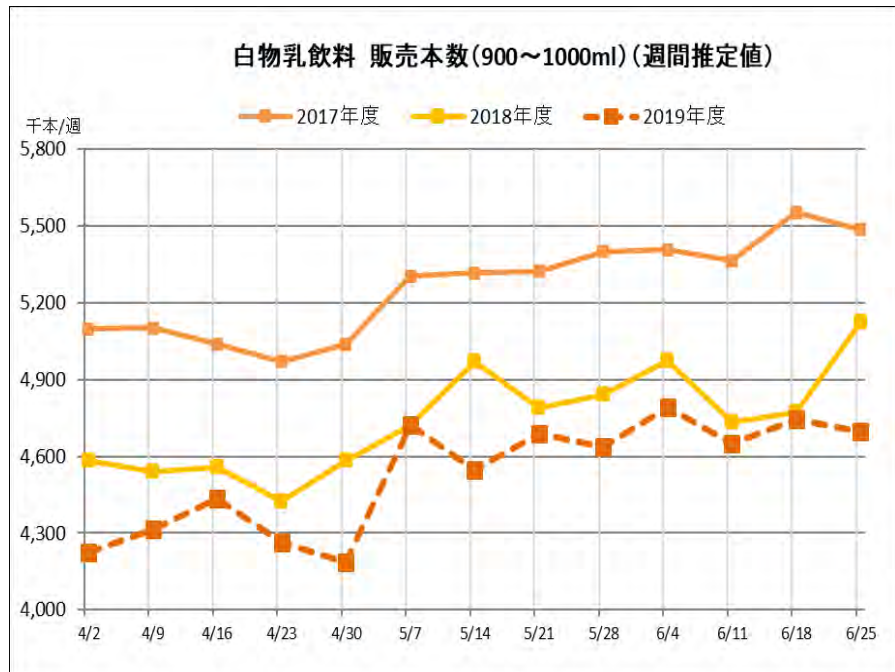
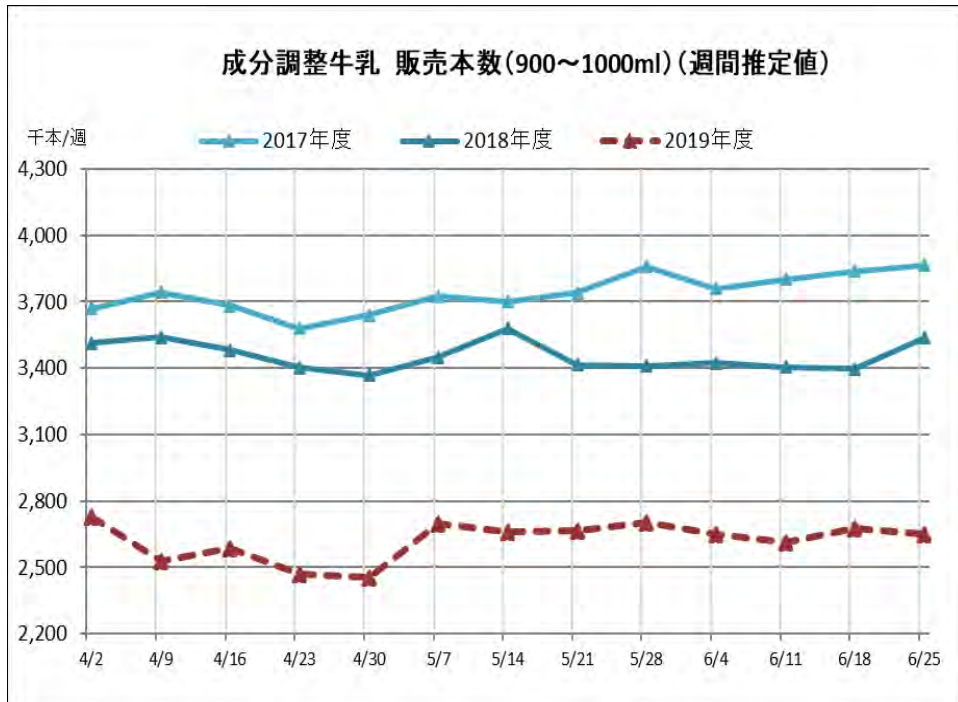
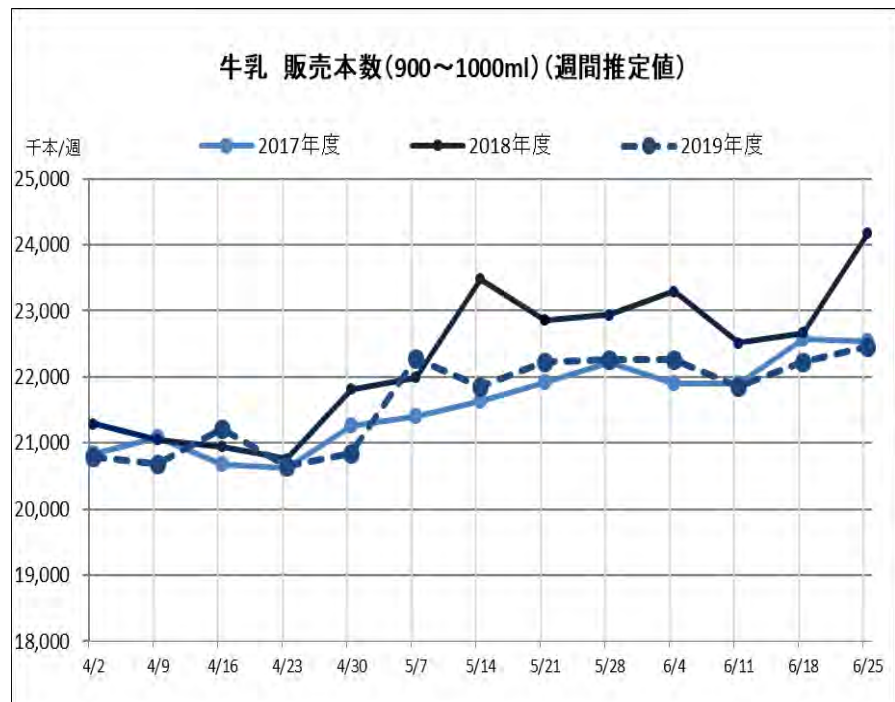
・**販売個数(週次4週合計)**は、牛乳:95.9%、成分調整牛乳:76.9%、加工乳:181.3%、乳飲料:96.3%。

・**販売単価(週次4週目)**は、牛乳:192.2円(前月比+0.6円)、成分調整牛乳:175.2円(同+1.0円)、加工乳:191.4円(同▲1.8円)、乳飲料:153.0円(同▲0.2円)。5月合計と6月4週目との比較ではあるが、牛乳、成分調整牛乳は上昇した。

・※出典 (株)インテージSRI週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。これらのデータ転用はご遠慮下さい。



		2018					2019						
		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
牛乳	販売個数前年比	104.9	104.0	101.8	104.6	100.4	101.7	102.6	99.4	100.5	102.1	97.8	96.9
	販売単価	184.4	184.5	185.4	187.2	186.5	184.9	184.8	185.0	184.4	184.3	190.7	191.6
成分調整牛乳	販売個数前年比	90.5	90.3	100.9	72.7	86.6	86.0	86.4	84.9	86.3	88.9	73.1	76.9
	販売単価	172.4	172.8	172.3	172.6	171.2	171.3	171.0	171.1	170.1	170.2	172.5	174.2
加工乳	販売個数前年比	109.9	111.8	114.8	134.9	117.1	107.1	108.9	106.9	101.9	104.4	191.6	186.0
	販売単価	150.1	149.8	149.7	151.8	150.5	150.7	149.4	148.6	148.0	149.7	190.3	193.2
乳飲料	販売個数前年比	90.6	90.0	91.1	103.1	99.0	95.2	95.8	92.5	92.3	93.4	93.9	95.4
	販売単価	146.9	146.9	146.9	148.0	146.8	147.3	147.3	147.2	147.1	146.8	152.7	153.2

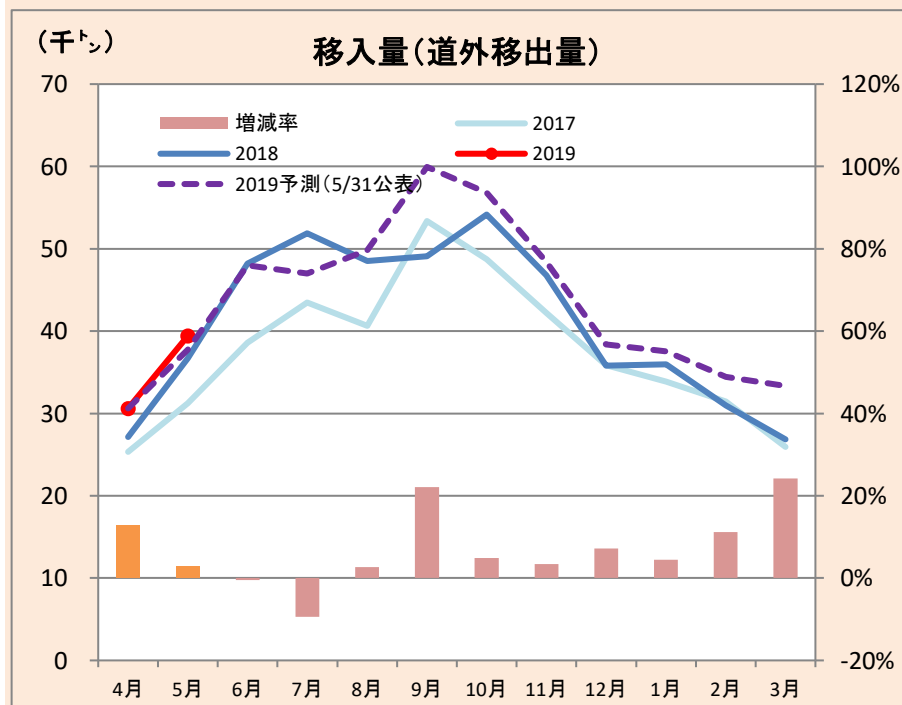
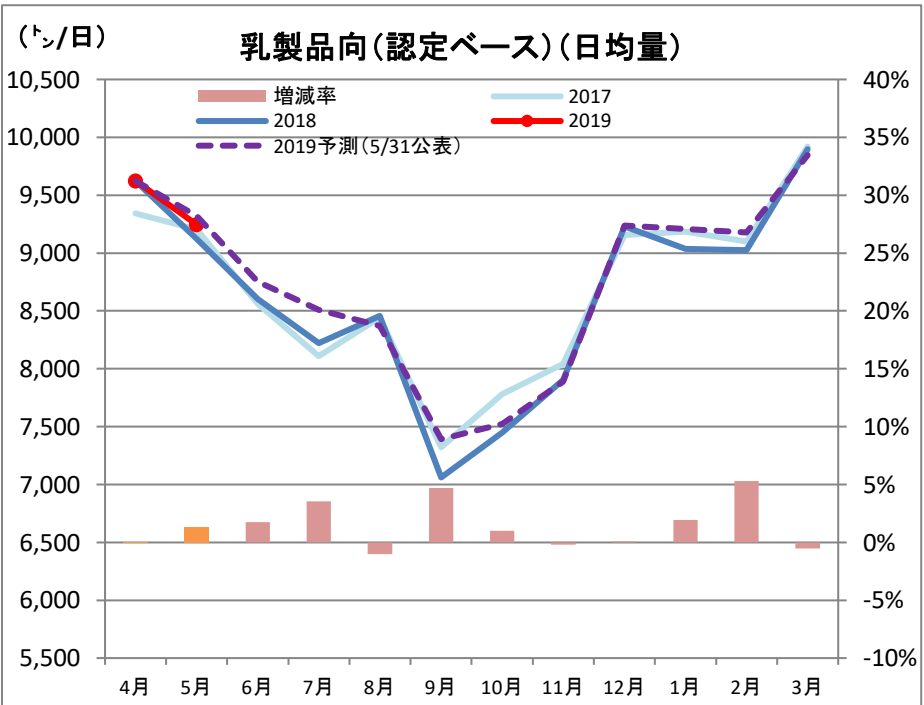
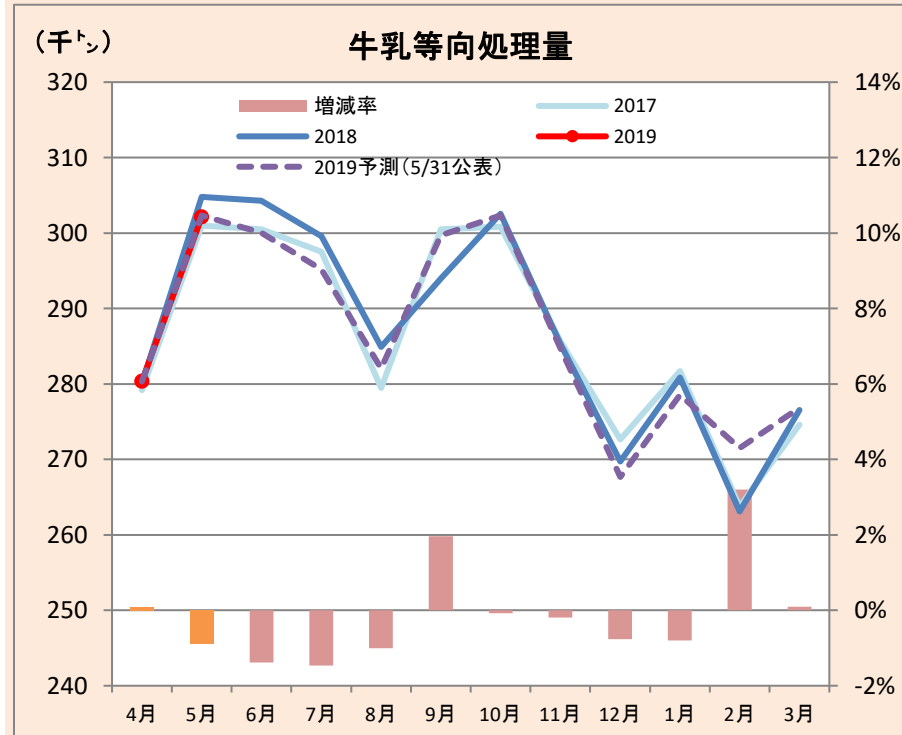
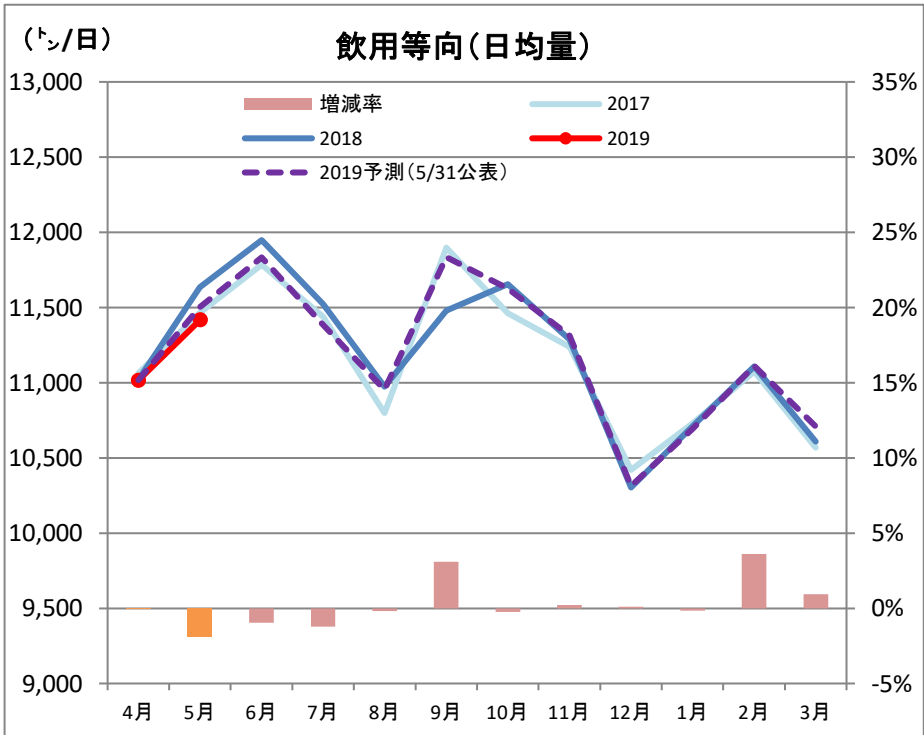
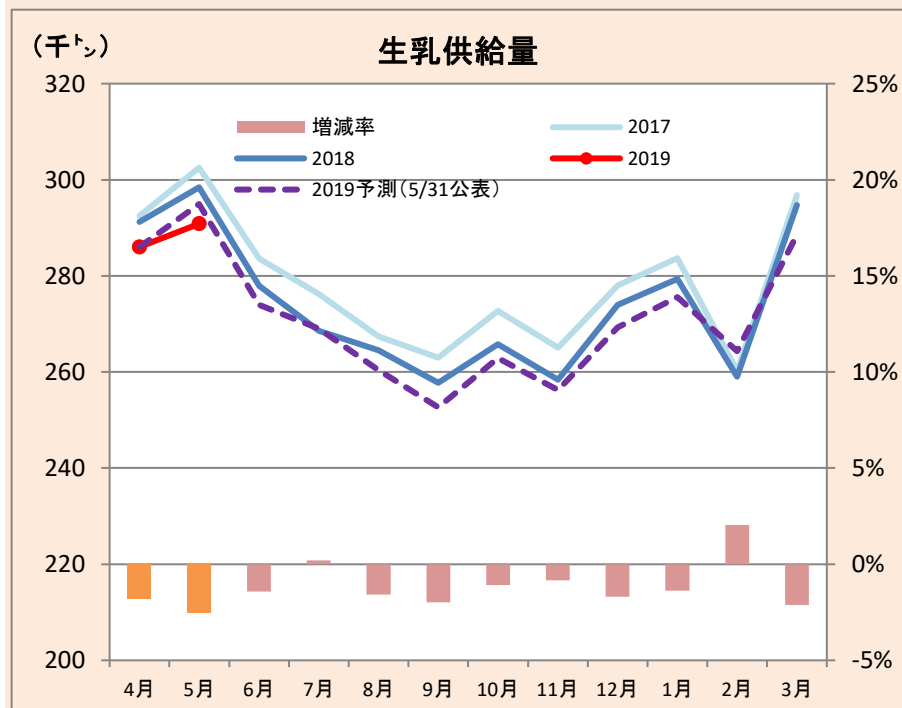
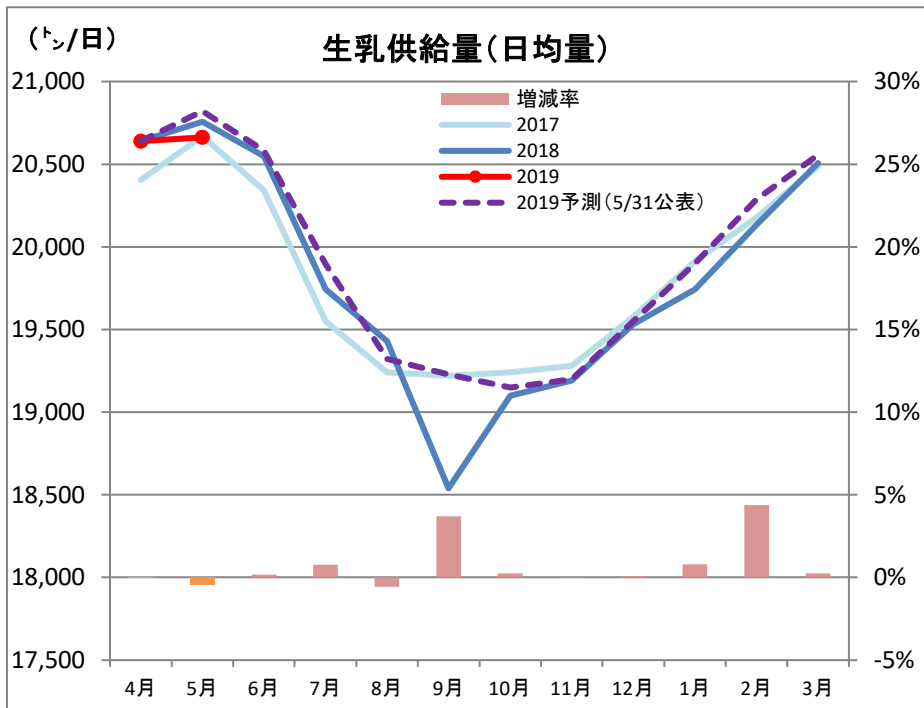


【用途別処理量】

(1)5月の生乳供給量は641千ト(前年同月比99.5%)、飲用等向354千ト(同98.1%)、乳製品向(認定ベース)287千ト(同101.4%)。
 (2)5月の統計における「牛乳等向」は同98.9%。**中央酪農会議が公表した用途別販売実績における「飲用牛乳等向」同97.4%に対して1.5ポイント上回る結果となった。**このことは、年度替わりの4月より指定団体以外の第1号対象業者等へ出荷した生産者の生乳仕向の大半が飲用等向であることから、指定団体ベースでの数値が統計と比較し、減少したものと推察される。

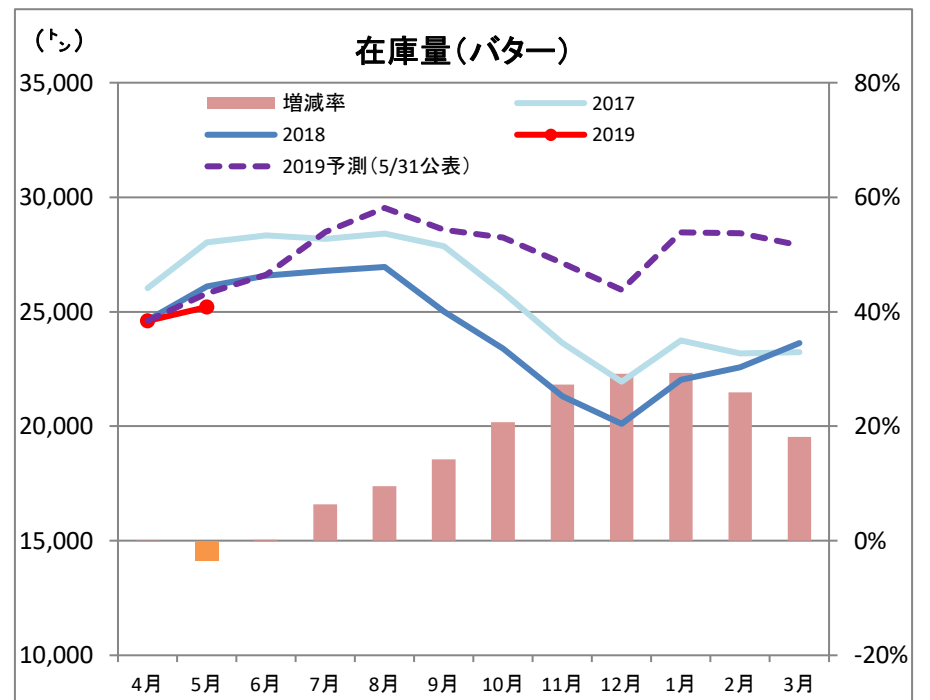
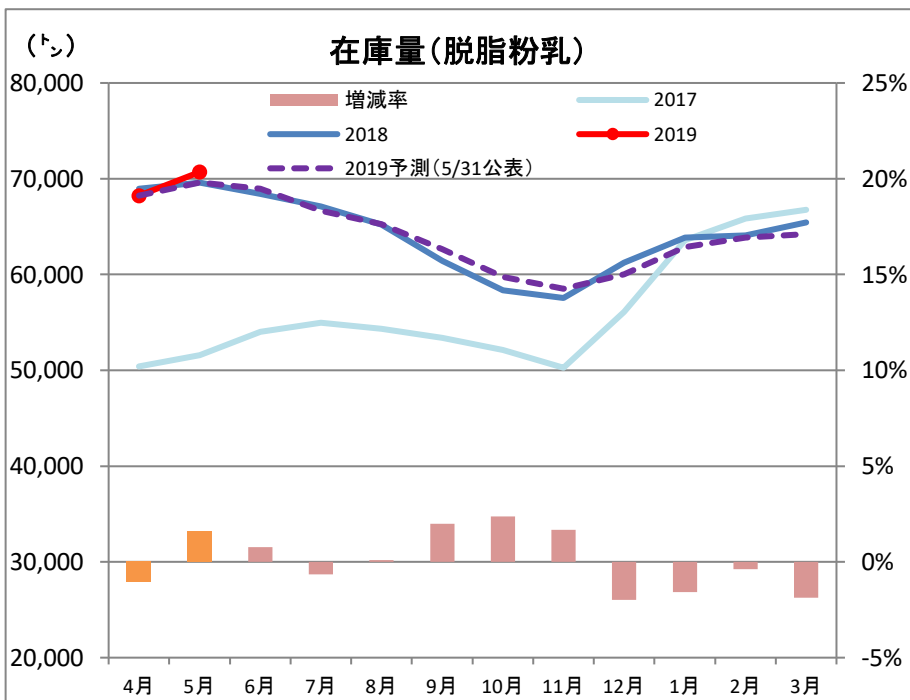
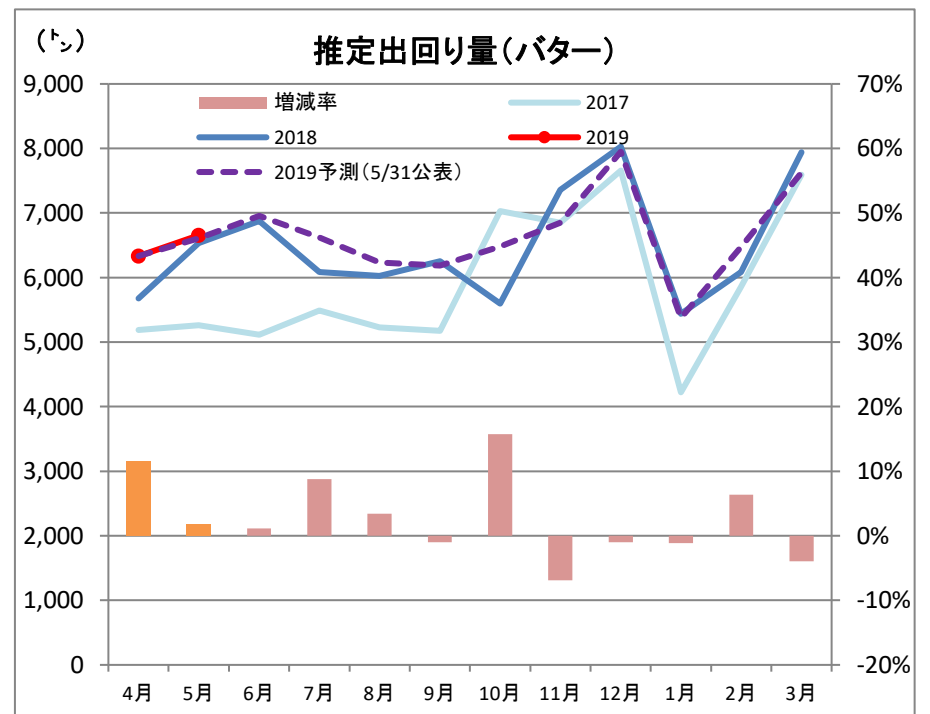
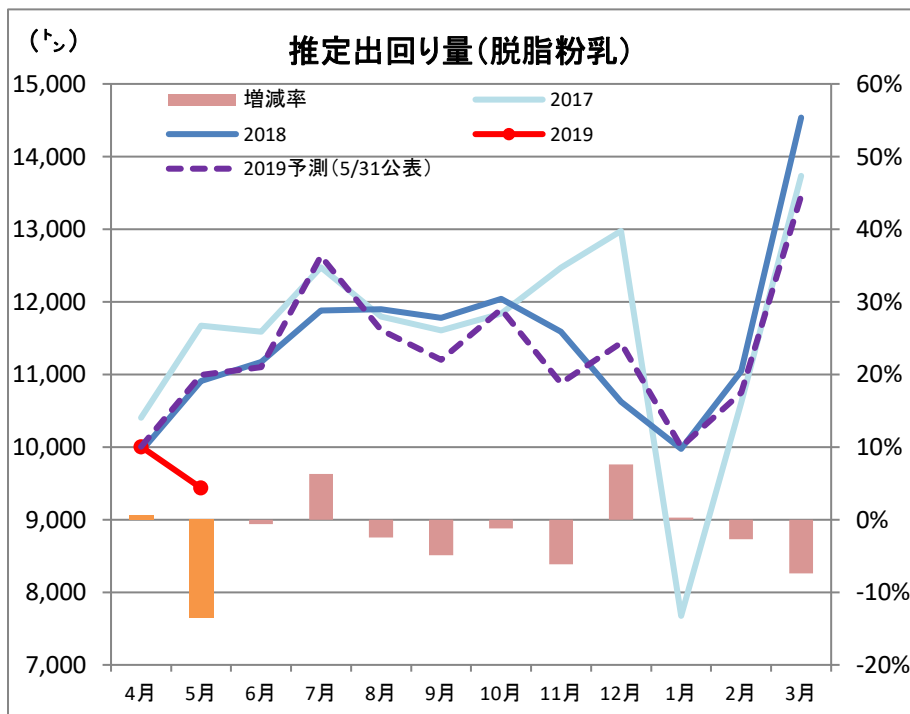
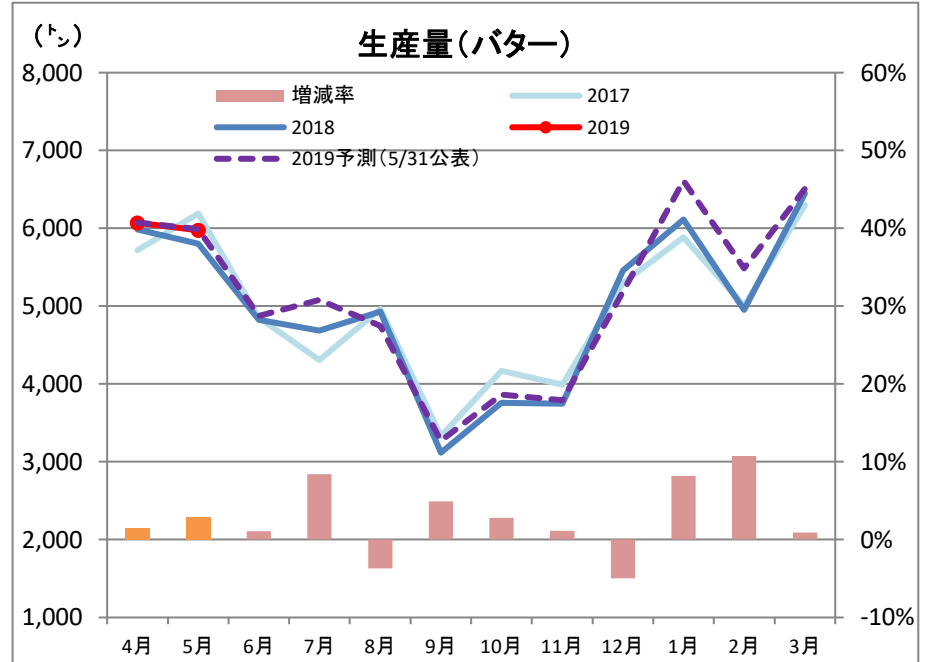
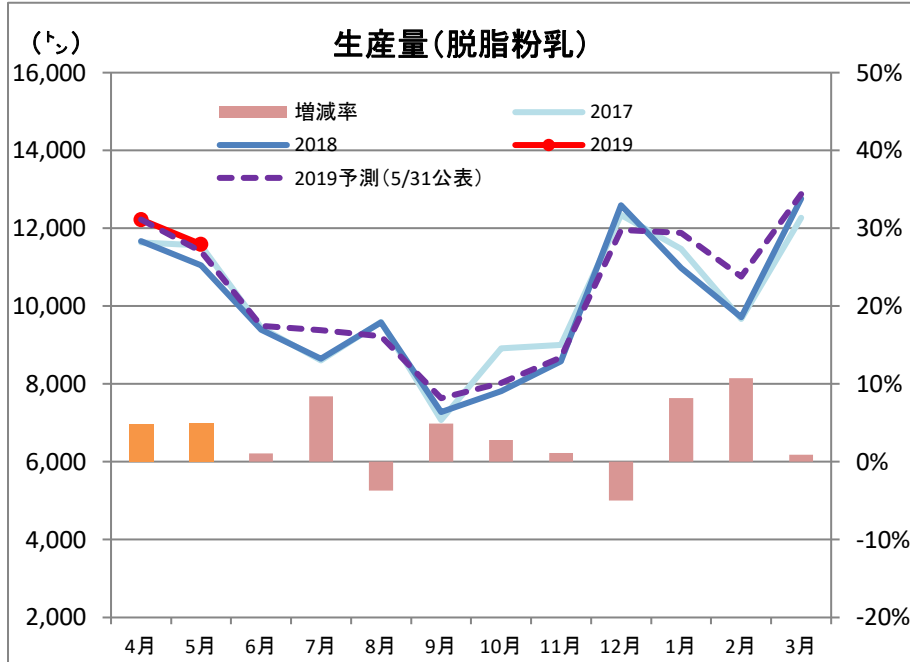
【都府県の生乳需給】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)5月の生乳供給量291千ト(前年同月比97.5%)、牛乳等向302.1千ト(同99.1%)、北海道からの移入量について、39千ト(同107.4%)。
 (2)生乳供給量の伸び悩みに加え、製品ベースでの移入量(※)が前年割れしていることから、生乳ベースでの移入量の引き合いが強くなった。**7月以降も引き合いが強いことが想定される。**
 ※5月統計実績 飲用牛乳の流通量における北海道からの出荷量は前年同期比92.1%。



【脱脂粉乳・バターの需給】 ※増減率は、日均量で算出。

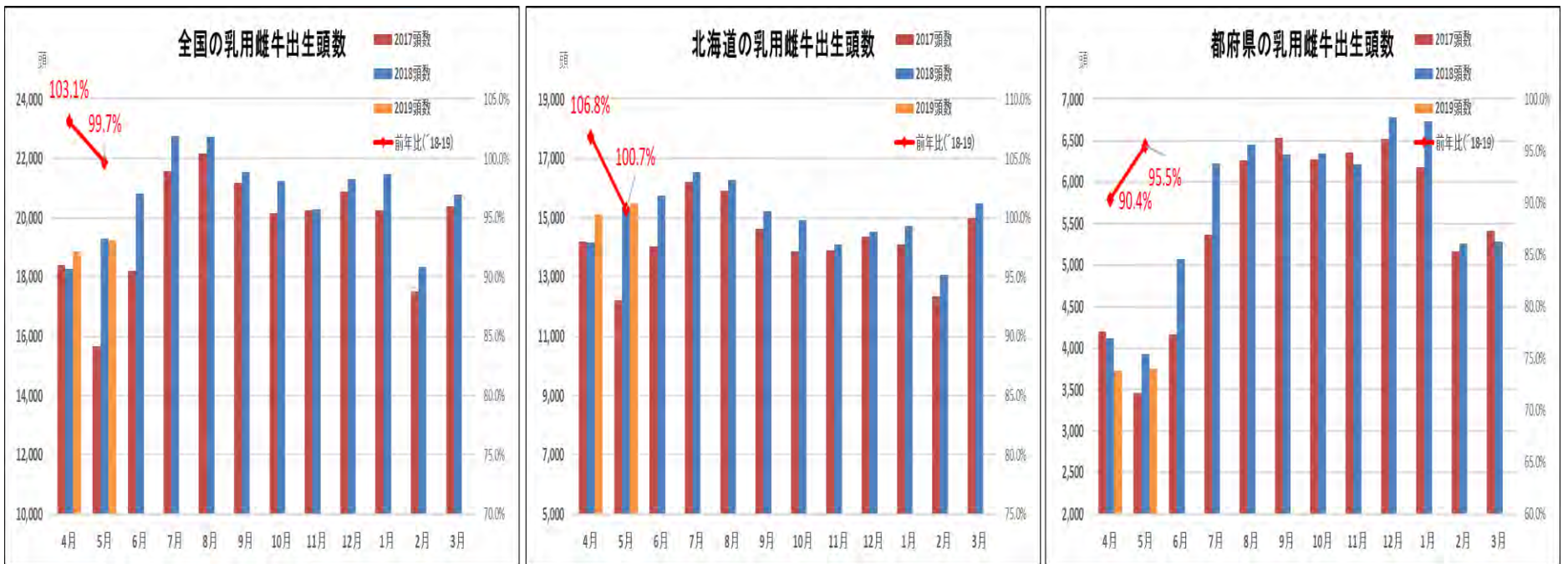
- (1) 脱脂粉乳は、5月の生産量は11.6千ト(前年同月比104.9%)、推定出回り量は9.4千ト(同86.5%)、その結果、在庫量は70.7千ト(同101.6%)。
- (2) バターは、5月の生産量は5.9千ト(同102.9%)、推定出回り量は6.7千ト(同101.9%)、その結果、在庫量は25.2千ト(同96.6%)。
- (3) 推定出回り量(≒需要量)は、バターは引き続き堅調であったのに対して脱脂粉乳は前年を大きく下回り、**在庫量は70千ト超となった。この水準は、2010年7月以来およそ9年振りでの在庫の積上がり感は否めない。**直近のはっ酵乳(ヨーグルト)需要が減少基調で続くなか、今後の脱脂粉乳の需要動向に注視する必要がある。
- (4) また、機構の入札状況を見ると、バターは全量落札が続く(2/28、3/14、4/11、5/9、6/6)。一方、脱脂粉乳は、入札数量4千トに対し1.4千ト(4/25)、同じく4千トに対し1.4千ト(6/20)と、半数以下の落札が続く。
- (5) 昨年12月に発効した2018年度TPP11枠による脱脂粉乳・バター輸入量について、現時点では正確な数字がわからないため、上記数値には反映していない。



【乳用雌頭数動向】

2019年度4月～5月の出生頭数は、全国38.0千頭(前年同期比101.4%)、北海道30.6千頭(同103.7%)、都府県7.5千頭(同92.9%)。**都府県は減少基調で推移しており**、このことは2歳以上乳用雌牛頭数の減少や昨年の猛暑による受胎への影響によるものと推察される。

※家畜改良センターの速報値。



【家畜販売価格動向】

(1) 家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は737千円(前年同期比79.9%)、育成牛価格は427千円(同75.2%)、和牛素牛(去勢)価格は795千円(100.3%)、F1素牛(去勢)価格は501千円(同106.8%)。

(2) **乳用牛(初妊・育成牛)価格は前月に続き下落**。肉用牛(和牛・F1素牛)価格はやや軟調で推移。乳用牛の後継牛が増加していることから、2019年度第1四半期の上場頭数(出回り)頭数は初妊牛・育成牛ともに1割程度増加している。

※ホクレン家畜市場集計表 速報値 (<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)

